

鹿児島県との友好の証プロジェクト実行委員会の設立趣旨（案）

【設立の趣旨】

宝暦年間に、薩摩藩は江戸幕府の命を受け、木曾三川治水工事を完遂されました。宝暦治水と呼ばれるこの難工事を縁として、岐阜県と鹿児島県は、両県民の総意により昭和46年7月、姉妹県盟約を締結しました。

以来両県では、40年以上にわたり、教育、経済等さまざまな分野で交流を深めてまいりました。また、両県の市町村間や関係団体間においても交流が続けられています。

現在、鹿児島県では官民が連携して、薩摩藩主島津家の居城であった鶴丸城の御楼門を復元する計画を進めています。

鶴丸城には天守閣や層楼がなく、威風堂々としたたたずまいの御楼門こそが、城下町として発展してきた薩摩藩のシンボルでしたが、明治6年に焼失しました。

鹿児島の方々にとって、御楼門の復元は、都市の風格を高め、城下町鹿児島の新たなシンボルとするという意義があります。

私たちはこの機会をとらえ、大恩を受けた鹿児島県の方々の思いに寄り添い、御楼門の部材の一部として岐阜県産のケヤキ材を提供することで鹿児島県に友好の証を示し、もって両県の絆が一層深まることを期待して「鹿児島県との友好の証プロジェクト実行委員会」を設立いたします。